

# NEWシーボーグ 200Jデビュー

●スモールモンスター「シーボーグ 200J」がフルモデルチェンジで新登場。自重 490 グラム +AIRコード標準装備で軽量コンパクトは変わらず、巻き上げ力は 1.1 倍、ドラッグ力は 1.3 倍と大幅にパワーアップ。新たにモーターオンオフ連動クラッチ、デブスアラームなどの新機能を追加。さらに電動モバイルセッティング対応で、ライン入力、メンテナンス管理、機能設定など、ダイワアプリと連携してスマホで簡単操作が行える画期的機能が搭載された。

マルイカ釣りではジヨグパワーレバーを駆使した快適な操作、見やすいドット液晶カウンター、デブスアラーム、電動スロー巻き上げなどが役に立つ。

■SPEC =ギア比 5.1、巻き取り長さ 55cm、自重 490 g (DHは 485 g)、最大ドラッグ力 10kg、最大巻き上げ力 28kg (スーパーリチウム使用時 31kg)、糸巻き量 PE1.5 号 450 m、2号 300 m、メーカー希望本体価格 81,000 円。200 J、200 J-DH、200 JL、200 JL-DHの4アイテムあり。5月発売予定 (JLは6月発売予定)

## ライトゲームIC

●ライトゲーム対応のICカウンター付き手巻きリールに、ダイワの次世代テクノロジー「ハイパードライブデザイン」搭載の軽量モデル誕生。150、150 L、150-DH、150 L-DH、200、200 Lの6アイテム。メーカー希望本体価格 29,700 ~ 33,600 円。5月発売予定。200サイズは6月発売予定。



SEABORG 200JL-DH



SEABORG 200J-DH

▲液晶画面が大きくなり、逆光でも見やすくなった



▲ライトゲームICは6アイテムを用意

## アナリスターマルイカ

●ゼロテン専用モデルと、宙釣りやプランクにも対応するマルチの2アイテムに、それぞれ替え穂が2本ずつ付いて使用範囲を広げた最新マルイカ対応モデル。メーカー希望本体価格ゼロテン 29,800 円、マルチ 29,000 円。発売中。



▲替え穂付きで幅広く対応

## イカ様トレイ



●イカは鮮度が大切。イカ様トレイを使えば温まりにくく持ち帰れる。最大5段重ねまで可能。樹脂製とアルミプレート付きモデルの2種。発売中。

昨日は今期最高の乗りだった  
が、今日は反応があっても乗り  
が悪いと船長。頻繁な移動こと  
に船中数杯という乗り具合だが、



▲ワンハンドで操作できる軽量設計



▲巻き上げはジヨグパワーレバーを駆使



▲序盤はヤリイカが多かった  
▲素早い取り込みで名手の本領発揮

澤さんが、すかさずジヨグパワーレバーをオン。「巻き上げスピードとATDドラッグの調整で、ウネリによるバラシも防止できます」と言いながら、初物の小型ヤリイカ2杯を取り込んだ。船中でもヤリイカに交じってポツポツと胴長15センチ級のマルイカが顔を出し始める。3投目に宮澤さんが待望のマルイカ2杯掛けを見せたあと、ようやく渡辺さんも乗りをとらえた。「やっと慣れてきましたよ。使いい込んだらいい相棒になりそうです」と渡辺さん。



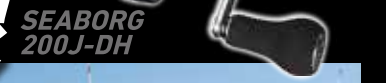
いよいよ開幕!外房のマルイカ初期の深場攻略、決め手は電動

★2人そろって今期初挑戦のマルイカは最新の小型電動リールを使用。仲よくダブルヒット!

渡辺太吾 宮澤幸則が今期初挑戦  
シーボーグ200Jを使いこなす

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.72

# マルイカ最前線



at 外房小湊寄浦港出船



▲宮澤さんはこの日の竿頭だった  
▲仕掛けはミッドストップ使用の5本ツノ



▲渡辺太吾さんは中盤から追い上げた  
▲渡辺さんは快適マルイカ仕掛け、渡辺モデルが先発



▲電動マルイカ釣法で狙う。詳細は動画にて

●低迷している三浦半島周辺のマルイカをよそに、外房小湊沖では例年どおり2月より開幕となった。さっそく渡辺太吾、宮澤幸則の名手2人が今期初挑戦。初期は水深が深いこともあり、最新小型電動リールを携えての釣行となった。

## 動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

「私も含め、マルイカは手巻きで狙う方が多いんですが、今回は電動リールも使ってみたいと思っています」と渡辺さん。「近々発売されるシーボーグ200J、深場のマルイカにはピッタリですよ」と宮澤さん。

2人はどこ吹く風で釣る手を休めない。2人とも残り1時間はシーボーグと同じタイミングで発売される手巻きリール「ライトゲームIC」を使用。ハイパードライブデザイン採用で巻き心地は滑らか。「深場でも楽しく巻けます、電動にするか迷っちゃいますよ」と渡辺さん。

乗船したのは小湊寄浦港の小沢丸。6時半に出船し、10分ほど走った水深75メートル前後で釣り開始。マルイカにはダブルハンドルがおすすめということで、渡辺さんは左巻きの200JL-DH、宮澤さんは右巻きの200JL-DH、竿はいずれも「アナリスターマルイカ」、5本ツノにオモリ50号でのスタートだ。手巻きと変わらぬ落下スピードでオモリ着底、すぐにタタキ「マルイカでは初めての使用ですが、軽くてパーミングもしやすいのでタタキ、誘い上げもスムーズです」と渡辺さん。1投目から乗りをとらえた宮

例年ならそろそろ盛期を迎える三浦半島の深場マルイカが今シーズンには出遅れ気味。いち早く釣れ始めた外房小湊沖への釣行は、渡辺太吾、宮澤幸則の両氏にとって、くしくも今期マルイカ初挑戦となった。